

提出書類について

提出書類

以下の 11 点の書類を専用封筒（学会から送付）にてご送付ください。申請書類および記載内容に不備のある場合、申請書類を受理できません。

循環器専門医資格認定審査申請書 2 枚 1 組

診療実績表(A)受持入院患者一覧表 3 枚（ 1 ～ 10、 11 ～ 20、 21 ～ 30 ）

診療実績表(B)研修記録 10 枚

診療実績表(C)手術所見（内科）、(D)外科手術記録（外科）、(E)剖検記録 合計 3 枚（組み合わせ自由）

研修（研修関連）施設在籍証明書 合計 3 年分

循環器専門医研修カリキュラムチェック表

受験票 写真貼付

審査料払込金受領証のコピー （No.1）の裏面に貼付

受領確認はがき 切手貼付

基本領域の資格証書コピー

AHA ACLS プロバイダーカードまたは AHAPALS プロバイダーカードのコピー

申請書類のダウンロード

2010 年 1 月中旬から日本循環器学会のホームページに申請書類（ ～ ）を掲載しています（Word/Excel 形式）。各自ダウンロードをしてください。

- ・フォーマット（ページ数・項目数）は変更しないでください。
- ・印字用紙サイズは A4 縦です。
- ・印字用紙は各自でご準備ください（白色のみ）。

提出書類説明

< ～ の書類について >

- ・ワープロで作成すること。手書きは不可とする。
- ・作成の際は、必ず見本を参照すること。
- ・書類は原本を提出すること（ ・ ・ を除く）。
- ・年月日は全て西暦で記入すること。
- ・書類は片面印刷すること。
- ・提出書類は返却致しません。

循環器専門医資格認定審査申請書

- ・申請者欄に捺印をすること。申請者氏名は自署でなく、ワープロ入力でよい。
- ・旧姓はかつて書きで新しい姓の右側に記入すること。
- ・所属先・自宅住所を記入すること。但し、当会に登録されている情報を申請書の記載に合わせて変更は致しません。登録事項に変更がある場合は、別途学会ホームページ等から変更の手続きを行うこと。
(所属先は、研修施設・研修関連施設に指定されてなくてもよい)
- ・病院・大学名は全て正式名称を記入すること。名称が変更されている場合は、旧名称をかつて書きで新しい名称の右側に記入すること。
- ・最終学歴の欄は、卒業または修了したものを記入すること(在学中は含めないこと)。
- ・基本領域の資格は、該当する資格に○印を付けること。新規認定者は認定年度と認定番号、更新者は最新の更新年度と認定番号を記入すること。
- ・AHA ACLS プロバイダーコース受講認定資格は、該当する資格に○を付け発行年月日を記入すること。
- ・履歴は医師免許取得以降、空白期間のないように全て記入すること(傷病・出産等により一時的空白期間のある者は履歴にその旨記入すること)。
- ・履歴の施設名及び所属部科名は主たる臨床研修場所を記載すること。履歴欄の施設名は略称でもよい。
- ・大学院生などの非常勤医師である場合でも一定の臨床研修を行っている場合は臨床研修歴として含めてもよい。
- ・申請時点で研修歴が受験資格条件を充足していない者は履歴および臨床通算歴を専門医試験日前日(2010年8月21日(土))までの見込みの年月を記入すること。
- ・責任者記入欄は全申請書類の記載内容の証明者として、申請者が研修した主たる研修施設(研修時に日本循環器学会指定の研修・研修関連施設であること)の責任者(理事長・教授・部長・院長等)が捺印すること。責任者は現在日本循環器学会の会員であること。責任者氏名は自署でなく、ワープロ入力でよい。
- ・申請書(No.1)の裏面には審査料払込金受領証のコピーを貼付すること(参照)。
- ・申請書2枚を左上部でホッチキス留めすること。

<診療実績表(A)～(E)について>

- ・他学会認定医取得の際に使用した症例を再度使用してもよいが、当会の申請書類の書式に合わせて作成し直し、提出すること(提出した書類をコピーして提出しないこと)。
- ・一般的ではない略語の使用は不可とする。使用する際は、必ず説明文を付けること。
- ・使用薬剤名は商品名ではなく、薬剤名(一般名)を使用すること。
- ・必ずしも記入例の通りである必要はないが、診療実績表評価基準の評価項目を満たすように記載すること。
- ・非会員であった時期の症例を記入してもよい。

診療実績表(A) 受持入院患者一覧表

- ・3枚全てに捺印をすること。氏名は自署でなく、ワープロ入力でよい。
- ・循環器系疾患について30症例を記入すること。
- ・30症例の中に下記10疾患を含むこと。含まれない場合は不足分に依りて減点されます。なお、診療実績表(A)・受持入院患者一覧表(1-10)の下部には下記10疾患を症例No.1-30のどの症例No.に記載したかについて【10疾患チェック欄】枠内にNo.を記入すること。チェック欄に入りきらない場合は、主なもののみ記入すること。

心不全 不整脈 血圧異常 虚血性心疾患 弁膜疾患 心筋疾患

感染性心内膜炎 肺性心疾患 大動脈疾患 先天性心血管疾患

- ・診断の欄は、略語を使用しないこと（例：AMI× 急性心筋梗塞○）。主要な診断名が複数ある場合は3つまで記入すること
- ・転帰は「治癒、軽快、不変、死亡、転科」のように記入すること。
- ・3枚を左上部でホッチキス留めすること。

1～10の症例について

- ・研修・研修関連施設に指定されている期間中の症例のみ記入すること。
（現在研修施設に指定されていても、過去に指定されていなかった期間の症例は含められない。但し、1989年度以前は研修施設制度が施行されていないので、1990年度において日本循環器学会の研修または研修関連施設として指定されている場合は、1989年度以前の期間の症例も含めることができる。）。
- ・指定施設区分には、該当する施設の種類（研修・研修関連）のどちらかに○印を付けること。
- ・診療実績表（B）1～10に対応する症例を記入すること。
- ・入退院日は、主治医の病院での入退院日を記入すること。

11～30の症例について

- ・研修施設・研修関連施設以外での症例を記載してもよい。

診療実績表（B）研修記録

- ・記入欄の最上部に診療実績表（A）1～10に対応する番号を書き、その詳細を記入すること。また添付書類がある場合は、該当書類に○印を付けること。
- ・診断以下は項目ごとにまとめて作成すること（現病歴以下は1200字以上1500字以下、考察は300字以上）。
- ・項目に記載事項がない場合は、「特記事項なし」と記入すること。
- ・複数枚にわたる場合は、左上部をホッチキス留めすること。
- ・診療実績表（B）1～3には診療実績表（C）手術所見（内科のみ）、（D）外科手術記録（外科のみ）、（E）剖検記録のいずれか一つを添付し、左上部をホッチキス留めすること。
内科系：手術所見か剖検記録（組み合わせ自由）。
外科系：外科手術記録か剖検記録（組み合わせ自由）。

診療実績表（C）手術所見（内科のみ）、（D）外科手術記録（外科のみ）、（E）剖検記録

《内科系の受験者》

- ・診療実績表（C）手術所見または診療実績表（E）剖検記録に記載すること。
- ・診療実績表（B）1～3に対応する診療実績表（C）または（E）を、（B）の後ろに左上部でホッチキス留めをすること。
1）外科手術例：（C）手術所見（内科のみ）
 - ・記入欄の最上部に診療実績表（A）（B）1～3に対応する番号を記入すること。
2）剖検例：（E）剖検記録
 - ・記入欄の最上部に診療実績表（A）（B）1～3に対応する番号を記入すること。
 - ・病理医からの正式な剖検報告書コピーを添付すること。
 - ・何らかの理由により剖検報告書の主治医（担当医）欄に申請者本人の氏名の記載がない場合には、「剖検の担当医

に関する証明書」を添付の上提出すること。責任者記入欄は記載内容の証明者として、症例を経験した各施設の責任者（理事長・教授・部長・院長等）が捺印すること。なお、責任者氏名は自署でなくワープロ入力でよい。証明書は学会ホームページよりダウンロードしたものを使用すること。

- ・剖検に関する証明書は該当する診療実績表(E)の後ろに左上部でホッチキス留めをすること。
- ・剖検報告書に記載されている患者氏名、生年月日、住所、ID、カルテ No.は消して提出すること。

《外科系の受験者》

- ・ 診療実績表 (D) 外科手術記録または診療実績表 (E)剖検記録に記載すること。
- ・ 診療実績表 (B) 1～3 に対応する診療実績表 (D) または(E)を、(B) の後ろに左上部でホッチキス留めをすること。
 - 1) 外科手術例：(D) 外科手術記録（外科のみ）
 - ・ 記入欄の最上部に診療実績表 (A) (B) 1～3 に対応する番号を記入すること。
 - 2) 剖検例：(E)剖検記録
 - ・ 記入欄の最上部に診療実績表 (A) (B) 1～3 に対応する番号を記入すること。
 - ・ 病理医からの正式な剖検報告書コピーを添付すること。
 - ・ 何らかの理由により剖検報告書の主治医（担当医）欄に申請者本人の氏名の記載がない場合には、「剖検の担当医に関する証明書」を添付の上提出すること。責任者記入欄は記載内容の証明者として、症例を経験した各施設の責任者（理事長・教授・部長・院長等）が捺印すること。なお、責任者氏名は自署でなくワープロ入力でよい。証明書は学会ホームページよりダウンロードしたものを使用すること。
 - ・ 剖検に関する証明書は該当する診療実績表 (E) の後ろに左上部でホッチキス留めをすること。
 - ・ 剖検報告書に記載されている、患者氏名、生年月日、住所、ID、カルテ No.は消して提出すること。

研修（研修関連）施設在籍証明書

- ・ 在籍期間が本学会指定の研修施設または研修関連施設に指定されていること。

（但し、1989 年度以前は研修施設制度が施行されていないので、1990 年度において日本循環器学会の研修または研修関連施設として指定されている場合は、1989 年度以前の在籍も研修期間として認める）
- ・ 合計 3 年分の在籍証明書を作成すること（3 年分以上は作成、提出する必要はない）。
- ・ 研修関連施設での研修は、研修施設の 1/2 として計算すること。
- ・ 証明書は 1 施設 1 枚とすること。複数施設に在籍していた場合は各施設 1 枚ずつ作成すること。
- ・ 証明者氏名欄には、証明者として該当する施設における責任者名（理事長・部長・教授・院長等：会員でなくてもよい）を記入・捺印をすること（自署でなくワープロ入力でよい）。
- ・ 各施設所定の証明書を使用する場合は、学会所定の様式を参照のうえ、同内容となるよう作成すること。

『循環器専門医』誌（専門医 News）に『研修施設および研修関連施設の一覧』が掲載されています。

学会 HP（<http://www.j-circ.or.jp/>）の研修施設・研修関連施設において本会指定研修施設の検索ができます。

但し、鞍替え等で過去に HP 掲載情報とは異なった指定区分の期間を持つ施設もあるため、詳細については事務局まで問い合わせること。

循環器専門医研修カリキュラムチェック表

- ・ このチェック表は日本循環器学会認定循環器専門医研修カリキュラムに基づく研修がされているかをチェックするものです。

責任者と面談のうえ、責任者が記入すること。責任者は、申請者が研修した最終の研修・研修関連施設の循環器専門医とする。

- ・研修カリキュラムチェックシートの各項目について、各項目の達成目標レベル（各項目の括弧内に記載）を達成している場合は○印を、達成していない場合は×印とその理由を達成度記入欄に責任者が記入すること。責任者氏名欄は自署でなくワープロ入力でもよいが、捺印をもらうこと。

受験者確認票

- ・希望する受験会場（東京または大阪）に○印を付けること。未記入の場合は、所属地区から会場を決定します。

申請後の受験地の変更はできないので慎重に選ぶこと。

- ・写真を貼付すること。大きさは、縦 4.5cm 横 3.5cm（パスポートサイズ）とし、写真の裏面には氏名を記入後、はがれないように貼付すること。

スナップ写真やスキャナで取り込んだ写真等は使用しないこと。

《会場》

東京会場（東京国際フォーラム）

大阪会場（大阪国際会議場）

審査料払込金受領証のコピー

- ・審査料 20、000 円を申請書類申請期間内に郵便局から振込むこと。
- ・払込金受領証のコピーを 申請書（No.1）の裏面に貼付すること。

審査料は審査結果にかかわらず返却致しません。

受領確認はがき

- ・表面には申請者住所・氏名、裏面には申請者氏名を記入すること。
- ・返信用切手（50 円）を貼付すること。

基本領域の資格証書コピー

- ・内科系は認定内科医または総合内科専門医、外科系は外科学会認定医または外科専門医、小児科系は小児科学会認定医または小児科専門医の認定期間が有効な証書のコピー（A4 サイズに縮小）を提出すること。
- ・複数の資格を取得している場合は、どれか1つを提出すること。
- ・証書を紛失している場合は各学会発行の証明書コピーを提出すること。また、認定期間が延長されている場合は証書コピーと延長通知書を提出すること。

AHA ACLS プロバイダーカードまたはAHA PALS プロバイダーカードのコピー

- ・AHA ACLS プロバイダーカードまたはAHA PALS プロバイダーカード（A4 サイズの用紙にコピー）を提出すること。

以上